

令和4年度東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点
「グローバル共生に向けた東南アジア地域研究の国際共同研究拠点」
年次研究成果発表会 プログラム（各演題、発表10分、質疑4分）

日時： 令和5年2月14日（火） 10時30分～16時15分

場所： 稲盛財団記念館3階大会議室（Zoomミーティング）ハイブリッド開催

10:30		開会	石川 登（京都大学東南アジア地域研究研究所）
10:30	－	10:40	所長挨拶 三重野文晴（京都大学東南アジア地域研究研究所）
10:40	－	10:50	拠点の状況報告 石川 登（京都大学東南アジア地域研究研究所）
セッション 1		司会：山崎 渉（京都大学東南アジア地域研究研究所）	
10:50	－	11:05	インキュベーション 課題1 代表：京都大学学際融合教育研究推進センター・特定助教 芦 宛雪 ASEANの金融デジタル化と金融包摂
11:05	－	11:20	インキュベーション 課題2 代表：京都大学東南アジア地域研究研究所・連携教授 吉川 みな子 蚊媒介性感染症の予防を取り入れた水災害のリスクコミュニケーションの改善－マレーシアペナンを例として－
11:20	－	11:35	インキュベーション 課題3 代表：岡山商科大学経済学部・准教授 池田 昌弘 近代東南アジアにおける社会経済の変容と季節性
11:35	－	11:50	インキュベーション 課題4 代表：鹿児島大学共同獣医学部・教授 田仲哲也 マダニ媒介性動物感染症の簡易迅速的な診断法の構築
11:50	－	13:00	ランチタイム（70分）
セッション 2		司会：帯谷 知可（京都大学東南アジア地域研究研究所）	
13:00	－	13:15	インキュベーション 課題5 代表：名古屋大学・アジアサテライトキャンパス学院・特任准教授 富田晋介 東南アジア大陸山地部における生態環境と生業に潜在する健康リスクの評価
13:15	－	13:30	インキュベーション 課題6 代表：金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系・講師 大澤 隆将 インドネシア・リアウ州の熱帯泥炭地における氾濫原保護区の設定についての超学際的研究
13:30	－	13:45	パイロットスタディ 課題7 代表：大阪大学大学院言語文化研究科・博士後期課程 菊池 泰平 大英帝国ビルマにおけるシャン・ソーブワと植民地行政官たちの交渉過程（1937年－1948年）
13:45	－	14:00	パイロットスタディ 課題8 代表：九州芸文館・学芸員 羽鳥 悠樹 インドネシア美術における集团的芸術実践と社会の関係
14:00	－	14:10	ブレイクタイム（10分）
セッション 3		司会：中西 嘉宏（京都大学東南アジア地域研究研究所）	
14:10	－	14:25	パイロットスタディ 課題9 代表：京都大学大学院情報学研究科・博士課程 目戸 綾乃 タイのダム湖に生息する2種の巨大淡水魚における共存メカニズム
14:25	－	14:40	成果発信 課題10 東京外国語大学・名誉教授 斎藤 照子 ビルマ・コンバウン時代の借金証文
14:40	－	14:55	フィールド滞在型 課題11 立命館大学国際関係学部・教授 松田 正彦 東南アジアの脱農化パラドクスの解明に向けた道具立て－包括的枠組みの構築へ－
14:55	－	15:10	フィールド滞在型 課題12 九州大学大学院経済学研究院・准教授 水野 敦子 コロナ禍と政変後におけるミャンマーからタイへの国際労働力移動の諸相
15:10	－	15:25	資料共有 課題13 総合地球環境学研究所・客員准教授 河野 元子 海峡植民地年次報告書統計資料のデータベース化とオンライン公開のこころみ
15:25	－	15:35	ブレイクタイム（10分）
講評・ディスカッション			
15:35	－	16:15	講評：太田 淳（慶応義塾大学経済学部 教授）
ディスカッション			
16:15	閉会のことば		